

医療講演だより 第26号

感染症について



11月21日（木）麓公民館にて、「健康について」講演会を開催しました。

講師 株式会社ユニチャーム 南里 氏
啓心会病院感染対策委員会
看護師 春口・向山

11月27日（金）院内において、「感染症」について医療講演を行いました。

講師 医師 副院長 古賀
看護師 梅崎・中島

マスク勉強会

感染

飛沫感染

感染者の咳やくしゃみ、つばなどの飛沫に含まれるウイルスを、鼻や口から吸い込みことによって感染します。

接触感染

電車のつり革やドアノブなど、ウイルスが付着したものを触った手で口や鼻の粘膜に触れることで感染します。

咳エチケット

急なせきや発熱などで、インフルエンザと思われる疑わしい症状がある場合には、感染源とならないように「咳エチケット」を実施しましょう。家族や周囲の人は感染源とならないように気をつける必要があり、感染者自身の感染を広げないようにする心使いが感染拡大を防ぎ、社会へのリスクを減らします。

飛沫が飛ぶ距離は、1m前後とされているため、1～2m離れましょう。



マスクを正しく使いましょう

- ① なるべく顔にフィットするように正しく着用しましょう。
- ② 原則は、1日1枚の使い捨てです。
- ③ 外すときは、ゴムひもを持って外し、マスクの表面には触らないようにしましょう。
- ④ 使用済みのマスクは、できればフタ月のごみ箱か、ビニール袋などに密封して廃棄しましょう。
- ⑤ 捨てた後には、手洗いをしましょう。

インフルエンザと肺炎の予防

インフルエンザの予防法

- ① 人込みを避け、外出時にはマスクを着用。
- ② 帰宅時には、手洗いうがいを施行する。
- ③ 栄養と休養を十分にとる。
- ④ 室内では、加湿と換気をする。
- ⑤ ワクチンの接種。



治療

現在日本で使用されている抗インフルエンザウイルス薬には、「点滴」「飲み薬」「吸入薬」があります。
成人で呼吸困難又は息切れがある時は、肺炎の可能性あります。

吐物の処理



吐物の処理を甘く見てはいけません。

1gあたり1万～10万個程度のウイルスが存在します。

吐物の処理方法

- ① 吐物を使い捨ての雑巾、ティッシュ、新聞紙などでできる限り拭き取りましょう。
- ② 塩素系漂白剤の原液に浸したタオルで汚染箇所を5分間覆う。その後水拭きをしましょう。
- ③ ビニール袋に吐物や拭き取ったティッシュなどを入れ、袋の口をしっかりと縛りましょう。
- ④ 吐物が入った袋と使い捨て手袋をビニール袋に入れ、口を然りと縛り廃棄しましょう。
- ⑤ 最後は、石鹸でよく手を洗いましょう。

消毒液の使用方法

通常は、塩素系漂白剤を200倍に希釈して使用してください。
また、特に吐物により汚れてしまった衣類、シーツ、タオルなどは、50倍に希釈した塩素系漂白剤に30分浸し、その後選択しましょう。

ペットボトルを使用した調整方法

（塩素濃度5～6%の塩素系漂白剤を使用）

ペットボトルキャップ2杯の漂白剤（約1.6ml）と水500mlで約50倍の消毒液。
ペットボトルキャップ2杯の漂白剤（約1.6ml）と水2Lで約200倍の消毒液。

次回予告

詳細は、玄関・外来ロビーなどのポスター、配布案内資料をご覧ください

皆様のご参加をお待ちしています